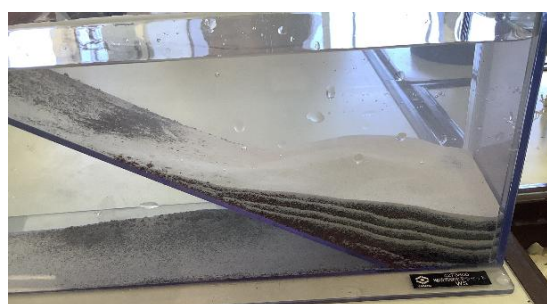


ビンの中で地層をつくろう!～石が重なる順～

6年「大地のつくり」の学習の後半は、地層が水のはたらきでどのようにつくられるかを再現する実験をしました。大きさや色の違うれき（大・茶）、砂（中・黒）、どろ（小・白）に見立てた実験用の砂を全て混ぜ、水で流してみました。



塩ビ管をスタンドに取り付け砂を乗せ、アクリル水槽へ勢いよく水で流すと、初めはにごりますが、4～5回繰り返し流した後、しばらくするとしま模様出现了。これには、みんな納得。

予想1：どろ（小・白）は、水を吸って重くなるので一番下に沈むだろう。

予想2：大きいほど重いので、れき、砂、どろの順に沈むだろう。

予想3：大きい石の隙間に小さい石が入っていくので、全体がまざって沈むだろう。

児童の予想は、どろは重いという感覚が多くあるようです。どろ遊びをしている経験がそうした発想につながったと思います。しかし、結果は大きい順にしま模様ができました。

そこで、自然の石や砂で、身近な物でも実験をし、結果が同じになればさらに理解が深まると考え、家から空きびんを用意してもらいました。空きびんには、運動場の赤土、幅跳びの砂、花壇の土を入れ、水と混ぜました。しばらく置いておくとビンの中の土もしま模様ができました。



地層から出てくる化石も調べました。アンモナイト、葉の化石、貝の化石は実物を観察しました。魚と恐竜はweb 検索しました。

大阪ガスネットワークさん出前講座“考える「防災教室」”

10月17日（金）と20日（月）に、大阪ガスネットワーク様から2名の職員さんを講師にお招きし、地震のメカニズムや、地震が起きたときの防災グッズの紹介、新聞で作るお皿や避難所で使えるスリッパ、魔法瓶（水筒）でゆでるパスタ等の知恵や工夫を学びました。また、地震に強いガス管や、震度5以上で自動で止まるマイコンメーターの操作方法など、企業としての防災システムもご紹介いただきました。大阪ガスネットワーク様には過去5年ほど継続して毎年この時期に来ていただいています。



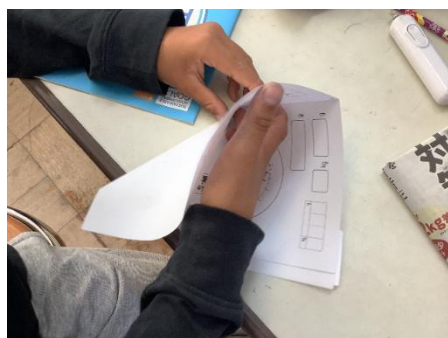
地震に対する認識を改める



お皿の代わりになるものを考える



新聞でスリッパをつくる



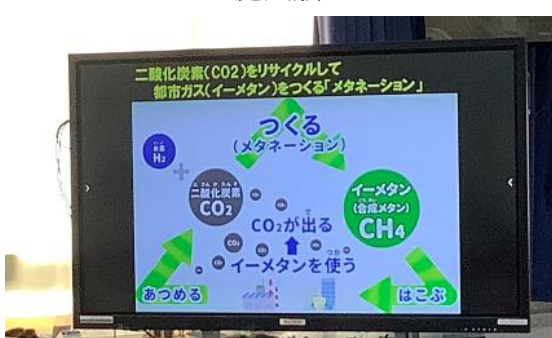
紙でお皿をつくる



魔法瓶でゆでたパスタを紙皿で試食(担任)



おいそ〜！ 食べた〜い！



イメタンをつくるメタネーション



11月には、電気の学習で関西電力様を講師にお招きし、発電について出前講座を計画しています。一般企業さんならではの専門的なお話が伺え、教材も学校にはない魅力的な物ばかりです。地域連携に加え企業連携も授業づくりの一つだと考えています。

防災教育

「考える防災教室」

対象 小学校(低学年) 参加型

大災害が起きた後、ライフラインが使えない状況でも生き抜くための知恵や工夫を、クイズやグループワークを通して考え、学ぶプログラムです。

消費者教育教材資料表彰2018
にて「考える防災教室」の冊子が優秀賞を受賞

2018
消費者教育教材資料表彰
優秀賞

詳しくは...
<https://network.osakagas.co.jp/effort/bousai/index.html>

大阪ガスネットワーク 防災教室

考える防災教室

カリキュラム(概要)

レクチャー	クイズ・グループワーク
① 日本で起こる自然災害 自然災害の多い国に住んでいること、どんな被害にあっているかを学びます。	① ライフラインのない暮らしをイメージしよう イラストを用いて、ライフラインが止まってしまうとできなくなることを考えます。
② 災害後の暮らしの変化 阪神・淡路大震災を例に、災害による被害とライフラインの止まった暮らしの変化を学びます。	② マンガクイズ「自宅で避難生活」 身近なもので災害を乗り切る方法をクイズ形式で考えます。

学習教材の配布のみも可能です

「考える防災教室」の冊子

(無料) ※当社供給エリア内の小学校に限りです。